



竜北通信

甲斐市立竜王北中学校
学校だより
発行 校長 小林 大
平成30年度第6号
2018.9.26

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために平成30年4月17日に実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（理科は3年に1度の検査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は、「知識」をみるA問題は全国および県とほぼ同程度であり、「活用」の力をみるB問題は全国よりもやや高いです。
- ・国語のA問題では敬語や古文の知識に課題があり、またA・B問題とも簡潔に必要事項を説明する力に課題がありました。
- ・数学では、A・B問題とも平均正答率は全国よりも高いです。また、A問題の方がB問題よりも正答率が高いです。
- ・数学では、記述式問題の正答率が低い傾向にあり、課題がみられます。
- ・理科の平均正答率は全国よりも高く、一定の定着がみられます。
- ・理科では「知識」に関する問題の方が「活用」に関する問題よりも正答率が高いです。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向が認められる項目
「自分にはよいところがある」「学校の規則を守っている」「いじめはどんなことがあってもいけないと思う」「人の役に立つ人間になりたい」「朝食を毎日食べている」「家で学校の宿題をしている」「理科の勉強がすきか」が高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
「学校の宿題以外に勉強をしている」「普段、1日あたりどのくらい読書をするか」「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、遊んだりすることがあるか」「新聞を読んでいるか」が低い数値を示しています。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・国語では、敬語や古文の知識を具体的に表現に取り入れて定着を図る授業を行います。また、自分の意見や説明を簡潔に、わかりやすく伝える場面を取り入れた授業を行います。
- ・数学では、簡潔にわかりやすく説明する場面を多く取り入れた授業を行います。
- ・理科では、1つの事象を多角的に捉えて、自分の考えを文章や図に表す工夫を取り入れた授業を行います。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・「家庭学習の手引き」を参考にしながら、家庭での学習内容を見直し、宿題だけでなく、自分の苦手なところや明日の予習などを自主的に取り組めるよう話し合ってください。
- ・保護者の方の読書体験やお勧めの本の紹介をしたり、家族でいっしょに読書の時間を設けたりするなど、家庭で読書する習慣をもつように働きかけをしてください。
- ・必ずしも新聞である必要はありませんが、今話題になっているニュースについて食事の時間に話し合うなど、社会の出来事に関心をもつような働きかけをお願いします。

学習・生活習慣と学力との関係

今回の調査結果とは違いますが、文部科学省は平成26年度の全国学力・学習状況調査で、学習・生活習慣と学力との関係についての分析をしており、次の児童生徒ほど、教科の平均解答率に高い傾向がみられるとしています。

○家庭学習・読書

「自分で計画立てて勉強をする」「読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い」

○基本的な生活習慣

「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る」

○メディアとの関係

「携帯やスマートフォンで通話・メール・インターネットをする時間が短い」「テレビゲームをする時間が短い」

○家庭でのコミュニケーション

「家の人と学校での出来事について話をする」「家の人は、授業参観や運動会などの行事に来る」

○社会に関する興味・関心

「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある」「新聞を読んでいる」「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」

○自尊意識・規範意識

「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「学校のきまり・規則を守っている」

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」

これらのことから、学校や家庭で正しい学習習慣や生活習慣を身に付けることの大切さがわかります。1学期に本校が独自に行ったステップアップ大作戦の調査では、朝食摂取率がどの学年も9割以上と高い数値を示しており、家庭での確かな生活習慣の定着を裏付けていました。ただ、家庭でのスマホやテレビゲームなどの使用時間については課題も浮かび上がっていました。今後とも家庭との連携を一層深め、さらなる学力の向上をめざしていきたいと考えています。